HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	小序
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	『鈴木榮太郎著作集６（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。 資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
Issue Date	1966
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77284
Type	manuscript
File Information	ix_X056_01.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

序

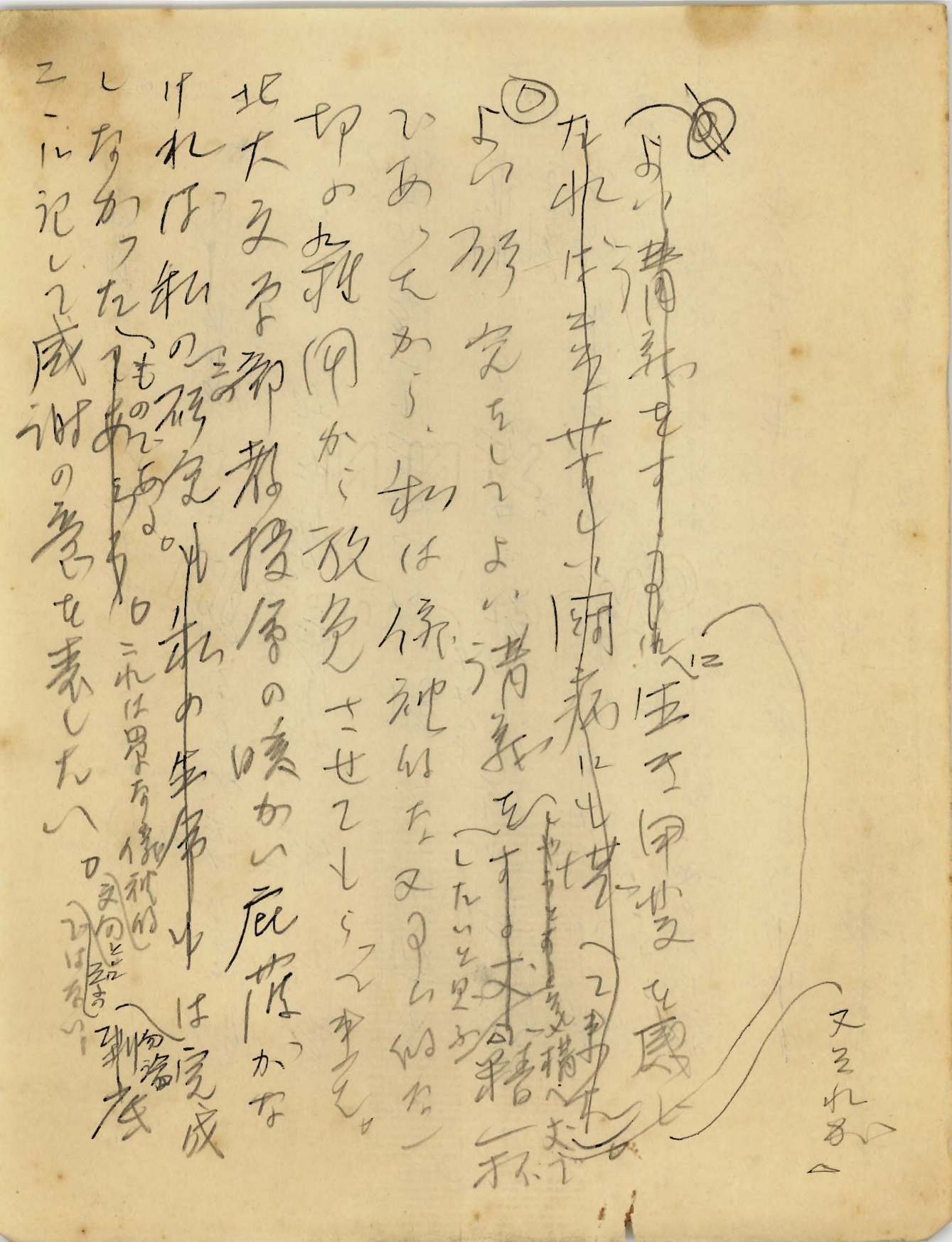
◎これは私の普通語となるであろうと思われる事柄を集めたものである。

まだ書き加えたい事項が相当に残っているけれども、これで一先ず筆を擱くことにした。◎やや精神病者の作品を思わせる感じがするのは、これが成るべく生のままの形で表現されることを望んだからである。

◎印は、普通なら省くべきものであるが、敢えて省かなかったものである。

昭和二十三年六月北海道にて

NISSHO



NISSHO

なはすばらしいものにまるでがゆるてきるよう
なるのよう私の先祖を崇拝し
ようとおもう。
ルターの精神をイタリアの
人々
に
この一言を
と思ったのは
完成
するまでに
死んではならない
死
ルターの
ように
ろうそくの
ように
ろうそくを
ともして
ルターの
ように
死んで
ゆく。
そんなりに
十字架を
完成
します。

No.

上梓するなど夢のまた夢のようでしたが、
幸いです。

⑥

アメリカでは深山の北方系が深山の分野に分化を本格と自化をいくらか立ち後に移定に始まったと。

序文の一部

No.

私が初めて公の研究に志したのは
昭和三年頃、私が東京でC・Eの身体調査
係の顧問をしていた頃、アメリカの記念
者や心理学者、人類学者などアメリカの
記念碑的の巨人の研究に着手した。
その後、私は、アメリカの各分野の記念
すべき人物の研究に着手した。即ち世
界的な発明家、科学者、哲学者、教育者、
芸術家その他各分野に於ける偉大なる
人物の業績がつまびらかになる。
(以下同文)

10×20 有斐閣

No.

今朝は、昨夜は貴殿とお会いし知
人かいな、そしくの分野では少くとも常
識も教養も豊富なのに驚きました。
常識にのみ和かしそれも何ら整理
されてない。
重複しますが、
お統一的視角に同べなかったのは
所詮男の無民の仕事としては
立派な一冊だと思います。
実際の話

10×20 有斐閣

して拙宅を訪ねたり

それが見ても正確と思つてゐる実はあるからである。

の拙宅

で不在なる旨に回する玄関の扉をさうとして
その手の経域内即ちに私は必ず伝向性を
発見ますに満足する文の筆蹟さも
おおよそ分つてゐます。これなしかし
大体にならだしよい格いうはしかし格高
の把握許は没入なくてはよい字
です。そんな時に元気なお礼による色々の
句節が安岡的な感覚によつて私かれて行
くますが、それへ。ほ本の記なる字には
大体の筆が多すぎて一兵隊の筆が少

(四)

日本の学問の世界に対する最高の賛辞は
矢張りは私に帰する言葉に同ずるものである
筈です。そしてはいは私にとれば一代の
宝物はは五人の子よ〜最も正しく虎暗さん
と呼んでます。考へてみれば私の五の子なる宝玉にて
数万に一粒なる玉の眼玉の下におかれつ子なの
方面は甚だ多い。都会ぬしまで洋みそんな
事情の経験お持つてなる移れ出のへん

No.

なすすてきよ。そんな考えかって
ある。
それからは本の外ははやはりお本の
学校にお～のみ帰って木すがる時に
勉強家されよそうでする。私は
外国人のお本の発音がとんなに悪
い事や今心決しる気ついて
よく知、た。
私も三年の期間に外
自分自身をいた期解決の研究
おこたは沸々と湧き出て

No.

見つけられなくて、やはり私はエトランゼーでしかなかったと言いたいところだけれども、そうではなくて、(笑)

私は沼津の都市図書館に勤務しながら精神科医に通院することはおかしいことだろうかと思いながらも、アメリカの学会誌を読んでは同じような論文を書きたいと思っていた。そうこうするうちに父の病気が悪くなった。そうこうするうちよく話す機会のあった唐木順三先生、横山重先生など沼津市立図書館

(6)

私はこの時まで世おおぜいの前で
その研究の発表をしたことはなく、むしろ
その研究が発表されることよりは
むしろ研究そのものを深めて行くことを
最近
終の研究分野としての御手洗家は私にとっては
前にかいも他人の口には感じられて仕方なかった。
(兄弟なかったせいか。)
しかし念願の御手洗家の研究発表にお会しやうと
一歩そこに足を入れようと全く他人の事も心地がある。

(兄弟のこと)
(ではなく)

私をやっとうまれてきてくれた
私は漫然としていた
それはいけない
そのために私はもっと
それから私自身で
この問題を発掘
この二つの
踏み出すにはまだおそくはあるまい
と心に決めた。
日暮れて道遠く行きつくまでには倒れるかも知れぬ
この決心を少しでも自分自身に確かめる
その一つとして私は本州文団の

書の中に都合よなる事を数字するを
好しむ。さうなれば矢は缶につるをはなれ
たのてある。もうどうする事も出来ない。
けれどもしおは前妻那(別に悪い
アメリカ人ではない)を以て都合よく
今しては私に好ましくない事を
私に対して都合よく行へかう
と思ったのである。
私が北大に来たのは昭和二年九月

私はその年の十二月に北に来てから最初の論文として「都市の雑草性」と題する一文を草しました。雑草性は速度と共に増大するという地方都市のみに書いたのであります。その論文は次の年の三月号に掲載されたのであります。その論文が、丁度その時から病床に倒れる脳溢血病者になったのでその論文の掲載された雑誌は手に入れる事が出来ませんでした。何回も見舞状を出してみましたが、どこかに行ってしまったのであろうと思います。建民

発病する前の年都市問題の論文である。

No.

昭和二十三年

ふさな地方

とふよ雑誌はほんの四はあの号はよ立松
さんた雑誌でおつたしものとはよる。都市に
つ、て南九私が都市みなをもまた子供な
かつた以の語るとレレれはなつかしい文
である。病院
第二療養生活のすべて同じの病床
は都市みなのである。私は私にこの性
分であるか、都市みなをみるを苦しませる
ものは文化には廃ほんとうの病院からも
とからはアナタカの四都市みなの同す

私の心の中の

⑩
奥井後右衛氏の大著をしみじみと読みふけっていた。
氏書の優れた内容に感服して矢先に誤植の
多書を都合28ヶ所も発見した。
本校に到着後26ヶ所も訂正しなければならない。
都市地理学を研究しかつ相つぐ転宅に足をかれ
ば平安はないと思っている私にとっては本
を書く意味はなくなったと果ては思ってすらまった。

残 No.

本をよみあさるとともに豊かな学の
家のはれもさうであつて移り易く教授の
わさへ学生の新奇な都合を満足し
そこに日本の特色の結局を見出さう
とつとめるけれどもその希望はとかく
ゆきちがひ勝ちで、時々もさくの時代が過ぎ
とももうこうなれば私の興味は見出せ
ず好くはかうで、都会の複製
あ残はまるで学問的芸術に不満
をつたはへてくよ興味は深かな。

さん 云々 を見出せ
見出すほど

都市に向ける該博な文の研究にかけてゐ

No.

はかくいあった。けれども私の病気は生死を
往来ます！ねな重態をくりかへしてゐた。
井井君が常に都合の私な指導を同する
兄、許可なくのはなしかたに任せ、絶対に俄かに突然に
を出ない様よくほんだ。ナンル勉強しては
又倒れ、病気が治が相あるについては
をとりもどし、又勉強して仕ねかして又
倒れるをくりかへして居た。
この一年よか完成すれはもう死んでも

よい先生とは、どのようであろう。昭和三十年夏から、化学療法を用いるようになり一年毒かーはもう危険状態はおこらなくなった。

よくもこの病気に対して、よくもこの一書が完成したものだと、我ながら感心する。よくぞ、この本、患者さんに役立つ本、よい本ができたと思う。

幸い中はかう、この本は、正しく、深く、よく理解されよう。迷うことなく、正しく、深く、よく理解されよう。

ノートの乱雑な行文を作り分りやすくするよう心をくばった。自分

て書いた原稿で出版までするは夢のまた夢と思ってみる。
私はなんの一兵卒
社会の一員の事実の研究として
社会の分野の研究をしてみる
ことに意義があり、役に成ることを
述べたい。私は社会学の研究は
地方を決して基本的な国体の
究明とそれの最高は一つの倫理を
期すべきものと考えるのは若し
少しでもそうなれば地方の分野の

小

No.

調査

研究とは、ものごとの本質を明らかにすることである。

なお、筆者自身では、私の都市論を、生活様式の基本的な構造と基本的な変化形式を発見することによって、ものごとの本質を明らかにすることである。

（そして文章表現に関する調査方法の上に論じられた一般的な都市論をこの本の中心に据えたいと思う。）

私はこんな大それた事をやろうとするのである。

私は都市社会学の研究上の仮説の先端に立ちたいと思うからなのである。

No.

あんこは良くやるよ、忠し私の移
定には前と方もなれるのは北大にかけ
る。私の希望のように※遠くあった。私の
この移定は全く(ゆき)と(ゆき)の(ゆき)よう協力して
達成したようです。(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)
たのよう私が(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)
多いのでは(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)
(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)
私の二人の※(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)(ゆき)
富山県

忠
句論

なり私自身が試みようとも
決心には至らなかったら
この研究はとうとう成就しまいなかったものである。
ストライキ中の工場に飛び込んで労資
双方の一同作の分裂の線を確認する。
階段の
ための調査ほのめかす。私自身が伏合
健康であっても厚生なかったむかしの私。

序文

我が江戸には、都市計画に関しては
既に奥井復太郎氏の雄大な業績一冊丈の大著
がありますので、私が屋上屋を重ねる必要
はないとも思ったけれども、都市の性格
論なども同氏がまだ触れられていよいよ
その他の方面を研究しなければならない
ようなので都市の比較研究を組織的に行ったのである。氏著五冊
大著の補記の役目を立つことが出来れば
幸いである。又私らしい世代の人々の大きな発展のみち
の踏み石の一つの役に立つことが出来ればよろこびである。

朝鮮に住んでいる日本人の書いた看板や何かが書いてあり文書が非常に多いのに驚いた。

朝鮮では字を書くのは男の人がよい字を書いて居てもそれは余り尊ばれないのだそうだ。

それで、文は実用的に用いられるのみで、詩をよんだり美しい字を書くのは閑人のすることとされているのだそうだ。

即ち書道は一つの高い芸術であるのだ。

それより者は多くの高さ故にそれよう

No.

を人に示すものであって、八百屋の帳簿が記憶のための記録として書かしてある文字の使い方とは全然異ったものがある。日本人は漢字を書くのに下手であるが外国人で日本語を知っている人。限りの文字は完全に活用しているのである。

漢字を活用して

漢字を知っている人は、漢字を知らない人よりも、ずっと進んだ生活をしている。

日本で

今日では大体がそのようには

No.

しゃうとしてゐる。

実を活かす活用すべきものである。人生
のお飾りとして唐朱の書道やお茶
道等の奥義を学ぶ事はよいが、それとその意義はあるが、
みん文なが人生に活用されねば其の
用をなさないさまたげになってはおかしたる
ものである。
真の学問が貴族者の教養の為に依った成る
用うられて来たからなったのであらうか、
学問とそへば抽象的な高いものと考えしとし
その外を絶対的なものとして来た。学問はお飾り
てなくそれを絶対的のものとして来た。益々

No.

なのうとしては私有財産の否認、私利
私欲の一つのかよい。
が事実は。
家同も絶対と化す以前と同様に自由
平等とおよそ絶対な矛盾のものとは
なれないだろうか。
生活の各方面に手のはいる
ように
商同しかし方面迄強められてよる。
常識的な判断によるようなく何程
かでも其の方向に近ける歩へ方を
とるだけでよいと思はれてよいから
常同は男子の心の生活は庶民の心のよ
沢山に
東洋的門閥主義になれた一つの考
弱かそうさしたのである。

No.

私はまだ家族の変化が
おこるよう考えるが私なのなにもの名前
知らない（けらいれて）ひとつ、ふえる。式の一
部よそ今現化すればそれでまた
何もかも今現化されねばならぬ訳では
なく、私なのなかのすべてが（事物）
親族、自分の周囲にいる人、考えてほし
いと思うかぎり、そうしなければ
今現化した我らしいそれぞれは
私なのなかの正しい連絡のため

No.

又私なのは法を立てて犯すのは
ルソー的な社会契約説的な形式はやめている。
子供は産んだって育てる。この二つの子供の上にのみ判断の基
礎をおいて論ずるのが二者を
統合的方法である。又二者を法の
仕方である。子はこのみならず
その云の近もありますが社会の先行はめ
ル歪曲されてよろしいであるか。
特殊な某友レい革命は、やってあけとし

No.

原始、日本の時代から村々つづけて来た塚に
思はれる事と考へ方などはもう一度、松本
翁に考へ直して見る必要あり。